

移民・難民問題がグローバル化するなかで、時宜を得た普及版の刊行

これからの移民研究に必携の一冊

三輪智博

神繁司 著

▶移民ビブリオグラフィー〈普及版〉

書誌でみる北米移民研究
10・31刊 A5判368頁 本体3700円
クロスカルチャー出版



本書は、国立国会図書館が発行する『参考書誌研究』の第四七号（一九九七年）から六七号（二〇〇七年）まで七回にわたって連載された書誌情報「ハワイ・北米における日本人移民および日系人に関する資料について」をまとめた、『移民ビブリオグラフィー——書誌でみる北米移民研究』の普及版である。

島の生活再建はもとより、福島の第一原発事故に伴う避難者の状況も、いまだ好転してはいるとはいえない。著者はその状況を「ディアスポラ」と呼んで、二〇一六年六月開催の日本移民学会第二六回年次大会のテーマ「いま移民研究に何ができるのか？」に言及し、「二〇一六年は、これまでになく移民・難民が人びとの注目を集め、その是非が各所で論じられている。人の移動の動きを扱ってきた移民研究は、このような現実に対してどのように関与することができのだろうか」という大会趣旨を紹介している。事実、いま移民問題、難民問題はグローバルな規模で複雑さを増している。本書はこうした現実に関与していく上で、研究の土台となる書誌情報を提供する重要な資料である。大会趣旨のとおり、その意味はますます高まっているということができる。まさに時宜を得た普及版の刊行である。

移民関係の外交史料、地方史誌や統計、文獻目録、移民関係の概説書や個別の文獻、新聞雑誌の紹介など、本書に収録されている文獻は約六三〇件にのぼる。レファレンスに携わる図書館関係者をはじめ、移民研究や日本近現代史研究の専門家・学生にとっても、原資料に到達するための手がかりとなる情報が盛り込まれている。

本書にはさまざまな活用の仕方が考えられる。注も豊富に付されており、それをたどっていくことで、資料の情報だけでなく当該テーマの研究動向を知ることができる。人物の経歴も随所に付されており、研究史だけでなく、移民にまつわる人物史として読むことも可能である。また専門用語の定義なども随所に言及があり、たとえば「移民」と「殖民」の違い、「日系新聞」の定義など、さらに知見を広め、深めていくための資料の出所や参照項が示されている。

著者が国立国会図書館の元職員であることも、本書の特徴を示している。同図書館のデータベースの状況についても情報が豊富に盛り込まれている。たとえば、同図書館は一九九七年度から、「全国新聞総合目録」データベース・システムの開発に着手し、国立図書館と大学図書館など、国内約一三〇〇機関が所蔵する新聞の原紙・複製版・縮刷版・マイクロ資料などの所在や所蔵状況が検索できるようになった。これで、アメリカやカナダで発行された日系新聞の情報にも容易にアクセスすることが可能になった。こうした情報化のプロセスも本書から知ることができる。

普及版では旧版の情報に加えて新たに索引が付され、またソフトカバーにすることで携帯性や利便性にも配慮がなされている。これからの移民研究に必携の一冊である。

（現代史研究）